

< 協定間等の連携、統合に特徴のある事例 >

担い手育成協議会を母体とした28集落からなる広域な集落協定

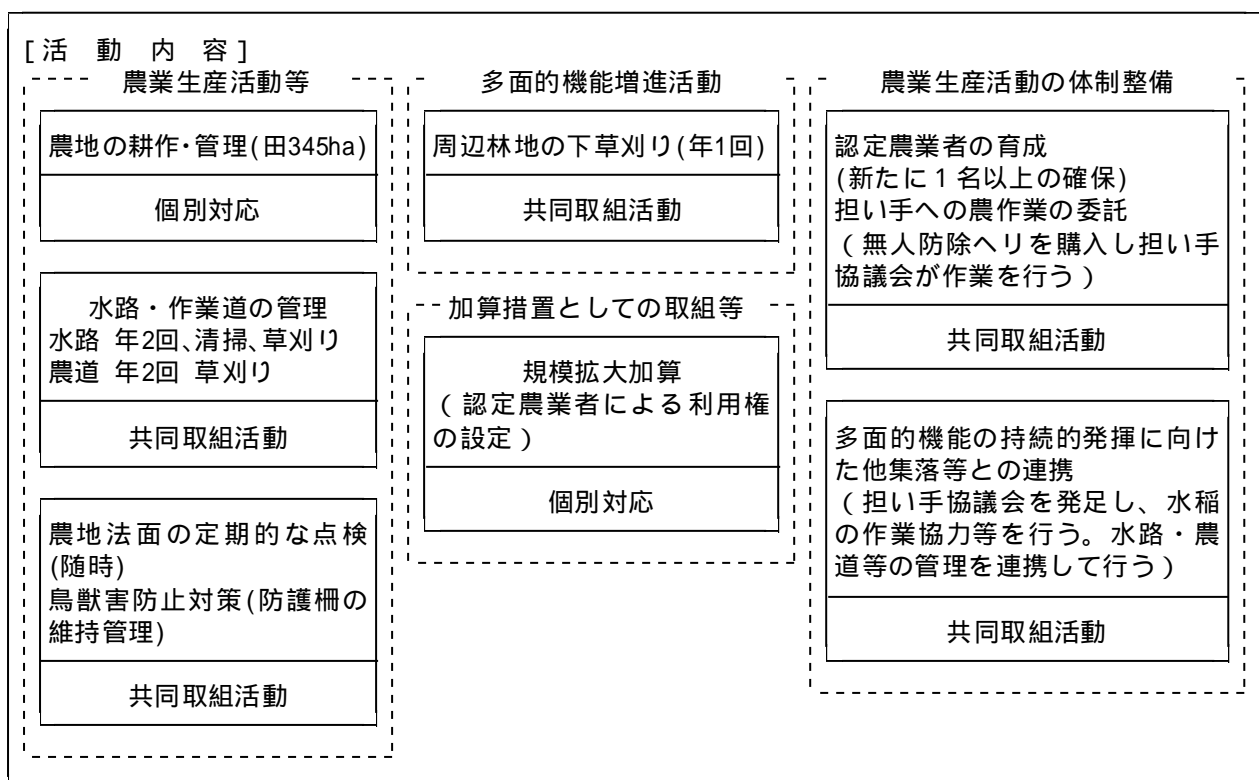
1. 集落協定の概要

市町村・協定名	山口県 <small>あぶくぐんあとうちょう</small> 阿武郡阿東町 <small>いくもちく</small> 生雲地区				
協定面積 345ha	田(100%)	畑	草地	採草放牧地	
	水稲・大豆	-	-	-	
交付金額 4,606万円	個人配分			44%	
	共同取組活動分 (56%)	農業生産活動費			10%
		水路・農道管理費			18%
		農用地管理経費			4%
		共同機械購入費			16%
		事務委託費			8%
協定参加者	農業者 316人、生産組織 1、非農家 23人				

2. 集落マスタープランの概要

阿東町生雲地区では将来に向け、地域の連携を深め、機械の共同化を進めるとともに、高齢化に悩む農家を支援するため、生雲地区全域をカバーする担い手協議会を設置し、将来の生雲地区全域の集落営農組織の育成や法人化の検討を視野に入れている。

今後、5年間の活動目標としては、耕作放棄地の防止、水路・農道の管理、周辺林地の下草刈りを生雲地区全域で連携して行う。また、担い手への育成目標として、現在、水稲の防除作業はほとんどが個人による防除または委託による防除であるため、生雲地区単独で無人防除ヘリコプターを購入して地区内の適期防除、及び、農業コスト削減を考える。また、認定農業者の育成に努め、5年間に1名以上の育成を行う。多面的機能の持続的発揮に向けた他集落等との連携として、生雲地区担い手協議会を発足させ、水稲の作業協力等を行うと共に、水路・農道等の管理についても日程を決め、連携して行う。



3. 取組の経緯及び内容

阿東町生雲地区では、前期対策においては5つの複数集落協定と15の単独集落協定が存在していた。しかし、地区全体的に高齢化が進む中、担い手不足によりこれから先の農業経営に不安を感じる農家が増加してきており、将来に向け、生雲地区全体で高齢化等に悩む農家を支援する担い手協議会を設置した。その中で、中山間の交付金を活用して将来の生雲地区全域の集落営農組織の育成を図っていくことに合意した結果、1つの複数集落協定が締結された。

現在の活動としては、生雲地区中山間地域等直接支払運営協議会を立ち上げ、総括事務（総括会計事務、申請・報告事務）については、同協議会が行い、会計事務の一部を委託により山口中央農協が行うこととしている。また、農業生産活動のうち、水路・農道の維持管理を関係集落で連携し、共同作業として実施している。今後の活動として無人防除ヘリコプターを購入し、農業経費の削減を図る。また、認定農業者を新たに1名以上確保する。



農用地等保全マップ
・猪防護柵の設置区域
・排水路清掃区域
についての範囲記載一例



無人防除ヘリコプター



中山間生雲地区説明会

- [平成21年度までの取組目標]
- 認定農業者の育成
(新たに1名以上の認定農業者の確保に努める)
 - 担い手への農作業の委託
(無人防除ヘリを購入し、担い手協議会が作業を行う)
 - 多面的機能の持続的発揮に向けた他集落等との連携
(担い手協議会を発足し、水稻の作業協力等を行う水路・農道等の管理を連携して行う)